

5 予算におけるその他の取り組み

(1) インセンティブ予算付与状況

インセンティブ予算とは、各部・局の創意工夫による経費節減や財源確保の取り組みを評価し、3年間別枠で配分する予算で、2007年度予算から導入したものです。

2012年度は、各部から11件の取り組みの申請があり、審査の結果6件の取り組みに対してインセンティブ予算を付与することといたしました。

◎節減額・財源確保額	11件	15,155千円
◆インセンティブ予算付与額	6件	1,918千円

2012年度予算では、上記の他に2010年度から引き続き各部に付与している17,760千円と合わせて、総額19,678千円のインセンティブ予算を付与しました。

■新たにインセンティブ予算を付与した主な取り組み

○納付済額通知送付事務（国民健康保険事業会計・後期高齢者医療事業会計・介護保険事業会計）《いきいき健康部保険年金課・介護保険課》

個別に作成・発送していた各種納付済額通知を一通に統合したことにより、経費を節減しました。

◎節減額 4,055千円 ◆インセンティブ予算付与額 864千円

○資格管理事務（介護保険事業会計）《いきいき健康部介護保険課》

介護保険の制度案内を、費用がかからないフリーペーパーで作成したことにより経費を節減しました。

◎節減額 399千円 ◆インセンティブ予算付与額 200千円

○放置自転車対策事業《建設部交通安全課》

放置自転車指導員の業務の効率化を図るため、配置・時間等を見直したことにより経費を節減しました。

◎節減額 1,693千円 ◆インセンティブ予算付与額 847千円

■インセンティブ予算の付与状況

単位:千円

	インセンティブ付与額			計
	2010年度分	2011年度分	2012年度分	
財務部	3,875			3,875
市民部	397	628	7	1,032
いきいき健康部			1,064	1,064
子ども生活部	30			30
環境資源部	3,158			3,158
建設部	5,524	1,613	847	7,984
選挙管理委員会事務局		2,535		2,535
計	12,984	4,776	1,918	19,678

■インセンティブ予算の主な充当事業

・新庁舎設備消耗品購入	898千円	(財務部)
・ぼうさいマップ印刷	597千円	(市民部)
・木曽森野センター備品購入	215千円	(市民部)
・町田市老人クラブ連合会講座等事業 補助金	1,064千円	(いきいき健康部)
・生物多様性基礎調査	3,158千円	(環境資源部)
・駅エレベーター、エスカレーター修繕	1,613千円	(建設部)
・町田市交通安全団体補助金	1,500千円	(建設部)

(2) 事務事業の見直し状況

2012 年度の予算編成にあたっては、「平成 22 年度包括外部監査報告書」で示された施設の管理運営についての見直しを重点的に行いました。

見直しの内容等については、以下の表のとおりです。

(単位：千円)

施設名	2012 年度 予算額 A	2011 年度 予算額 B	削減額 A-B	見直しの内容
堺市民センター	11,510	11,534	▲24	光熱水費を精査し、削減しました。
まちだ中央公民館	17,758	20,857	▲3,099	事業運営方法や講師選定方法の見直しにより各種事業の費用を削減しました。
町田市立中央図書館	53,535	65,025	▲11,490	資料費、消耗品等の削減を行いました。
町田市健康福祉会館	43,807	49,129	▲5,322	保守点検委託等を精査し、削減しました。
ふれあい桜館	36,757	37,155	▲398	保守点検委託等を精査し、削減しました。
町田市青少年施設 ひなた村	23,167	24,995	▲1,828	光熱水費や消耗品、保守点検委託等を精査し、削減しました。
計			▲22,161	

参考資料 1

新庁舎建設と業務改善によって得られる効果

市では、2012年7月17日（火）の開庁を目指して新庁舎の建設を進めています。新庁舎建設は、現庁舎の様々な問題点（庁舎の狭あい化、分散化、耐震性能の不足等）を解消するために行っているものですが、単に問題を解決するためだけに行うのではなく、今よりもさらに質の高い行政サービスの提供できる、市民にとって利便性の高い庁舎とするため、業務の改善にも取り組んでいます。

新庁舎建設効果その1 市民に親切で使いやすい庁舎になります！

市民利用の多い窓口を1，2階に配置、的確に分かりやすくご案内する総合案内係の導入やワンストップサービスの実現、議会の傍聴がしやすいように議場を低層階の3階に配置するなど、市民にとって使いやすい庁舎になります。

また、分散していた行政機能が1カ所に集

<現本庁舎と新庁舎の比較>

	主なサービス・施設	現本庁舎	新庁舎
(1) 行政サービスの向上	総合案内係	○	○(充実)
	ワンストップサービス	×	○
(2) 市民利用施設の充実	来庁舎駐車場	86台	195台
	授乳室	1カ所	2カ所
	キッズコーナー	約6㎡	約15㎡
	カフェ・レストラン(喫茶・食堂)	約310㎡	約560㎡
	コンビニエンスストア	×	○
(3) 市の情報発信の充実	市民協働専用空間	×	○
	PR・イベントプラザ	×	○



約されることにより、市民ニーズへの迅速な対応、行政運営の効率化を図ります。

さらに、新庁舎では市民利用施設を充実するとともに、1階に設置する「PR・イベントプラザ」では、観光やスポーツなどの情報を発信したり、コンビニエンスストアでは、町田の名産品を販売します。これらを通して、市の情報発信の充実や、市内経済の活性化につなげていきます。

新庁舎建設効果その2 行政運営が効率的になります！

ほとんどの行政機能が1カ所に集約されるため、職員間の相互連携が密になるなど情報の共有化が進むとともに、スピード感を持った効率的な行政運営が可能となります。

例) これまでライフラインに関する部署が別々の庁舎に分かれていました。しかし、新庁舎では、1カ所に集約されるので、大地震があった場合でも、災害対策本部室に直ぐに集合し、市長の指揮命令のもと迅速な災害復興対応が可能となります。

新庁舎建設効果その3 ローコストな行政運営が実現します！

新庁舎の建設による経費の削減効果を年間約6億円と見込んでいます。

<削減内容>

項目	年間経費削減額	内容
建設に伴う削減効果	約5億4千万円	分庁舎・駐車場の借り上げ賃料及び、職員の移動にかかっていた人件費等
業務改善に伴う削減効果	約4千3百万円	新庁舎に行政機能が集約されるメリットを最大限に活かした業務改善(業務用車両の台数削減(30台)、コピー機等業務用機器の共用化による台数削減(9台)、公文書ファイリングシステムの見直し等)による効果
営業施設による収益	約1千9百万円	新庁舎に設置するコンビニエンスストアとカフェの賃料収入

☆建設費及び移転関連(什器・備品、引越し等)コストも削減中です!!

コスト削減の努力により、計画当初、総額166億4千万円と想定していた新庁舎にかかる経費を現在150億8千万円まで縮減しています。当初の計画から1割の経費を削減することを目指して、今後も更に努力を続けていきます。



新庁舎建設効果その4 防災・災害復興拠点機能が強化されます！

新庁舎は、通常建物の1.5倍の強度で建設されており、震度7程度の大地震が発生した場合でも、速やかに復興拠点として機能することができます。

<新庁舎で強化される主な機能>

項目	内容
災害対策関連諸室	災害情報の入手や支援物資の受け入れなどの対応が迅速にとれる災害対策本部室等
発電設備	停電時の電力確保が、「通常時の30%で9時間」→「通常時の60%で72時間」にアップ
ホバリングスペース	ヘリコプターを使用して空からの救援物資輸送・救援活動が可能なスペースを新設

新庁舎建設効果その5 環境にやさしい庁舎になります！

新庁舎は、ビルのエネルギー使用量の監視を行うシステムの導入や自然エネルギーの活用、屋上緑化等、環境に配慮した設計となっており、建築物総合環境性能評価(CASBEE)で最高ランク(Sランク)を取得しています。

環境にやさしい庁舎として、同規模の標準的な建物と比べて、年間約1,300トンのCO₂排出量(都市ガスの料金の換算すると年間約6千万円)を削減します。

<新庁舎に設置される主な環境負荷低減設備>

太陽光発電、雨水の再利用、照明制御システム、アトリウムによる温熱環境負荷削減、屋上緑化、ビルエネルギー管理システム



参考資料2

当初予算案ができるまで

市は、新しい年度が始まる前にこの先1年間に行う事業を検討し、収入と支出の見積りをします。これが「当初予算」といわれるもので、市民の代表である議会の議決を経て成立し、新しい年度が始まるとこの予算をもとに事業が行われます。

「当初予算」の予算編成は以下のような流れで行われ、議会に予算案として提出されます。

※時期は、2012年度予算編成をもとにしています

